

新病院建設特別委員会・民生常任委員会 連合審査会

経営統合及び新病院建設並びに 岩見沢市病院事業経営強化プランについて

令和 7 年 8 月 1 日

市立総合病院事務部

目 次

I 経営統合に向けた取組みについて

1	これまでの経過について	P 1
2	診療機能について	
	(1) 標榜診療科	P 2
	(2) 労災病院から引き継ぐ診療機能	P 3
	(3) 病床数の設定	P 4
	(4) 外来患者への対応	P 5
	(5) 院外処方の導入	P 6
3	労災病院職員の移行について	
	(1) 移行予定者数と統合時の職員数	P 7
	(2) 移行対象者の勤務条件等	P 7
4	今後のスケジュールについて	P 8

II 新病院建設に向けた取組みについて

1	実施設計段階の取組みについて	P 9
2	工事費積算額の推移と全体事業費について	P 10
3	エネルギーサービス事業について	P 11

4	J Vの組成について	P12
5	工事等スケジュールについて	P13
6	各契約の概要について	P14

III 岩見沢市病院事業経営強化プランの改定案について

1	主な改定内容	P15
2	各年度収支計画【総合病院】	P16
3	経営の効率化等【総合病院】	P17
4	各年度収支計画【栗沢病院】	P18
5	経営の効率化等【栗沢病院】	P19
6	純損益と累積欠損金	P20

IV 市立総合病院の中長期的な収支見通しについて

1	中長期的な見通し	P21
---	----------	-----

I 経営統合に向けた取組みについて

1 これまでの経過について

令和6年7月 両設置者間での早期経営統合に係る共通理解を踏まえ、
「両病院の統合に係る基本合意書」を変更

<基本的事項の決定>

- ・ 経営統合の時期は、令和8年4月1日とする。
- ・ 経営統合後の病院は市立総合病院とする。
- ・ 北海道中央労災病院は令和8年3月31日をもって閉院する。

<優先課題の検討>

- ・ 経営統合後の診療機能（標榜診療科、労災病院から引き継ぐ機能など）
- ・ 労災病院職員の移行（労働条件、移行する職員数、非正規職員の取扱いなど）
- ・ 医療情報システム（患者情報の統合など）
- ・ 物理的課題（統合後の医療機能を踏まえた施設の一部改修など）

令和7年8月 **「経営統合時の診療機能などの検討状況」を報告**

I 経営統合に向けた取組みについて

2 診療機能について

(1) 標榜診療科

- 統合時の医師数や専門医の配置見通しに加え、新病院で予定している標榜診療科につなげていくことも考慮し、**2 2 診療科**の標榜を予定する。

現行 (R7.4.1) 1 5 診療科		
1	内科	(総合内科)
		(一般)
		(糖尿病)
		(呼吸器)
		(循環器)
		(腎臓)
2	消化器内科	
3	小児科	
4	外科	
		(透析)
		(血管)
		(乳腺)
5	整形外科	
6	産婦人科	
7	耳鼻咽喉科	
8	眼科	
9	泌尿器科	
10	精神神経科	
11	麻酔科	
12	脳神経外科	
13	皮膚科	
14	放射線科	
15	形成外科	

新設 8
廃止 1
変更 1

統合時（R8.4.1）		2 2 診療科
1	内科	（総合内科）
		（一般）
		（糖尿病）
2	呼吸器内科	
3	循環器内科	
4	腎臓内科	
5	消化器内科	
6	小児科	
7	外科	
8	透析外科	
9	血管外科	
10	乳腺外科	
11	整形外科	
12	産婦人科	
13	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
14	眼科	
15	泌尿器科	
16	精神神経科	
17	麻酔科	
18	脳神経外科	
19	皮膚科	
20	放射線科	
	<廃止>	
21	リハビリテーション科	
22	歯科口腔外科	

※赤字 = 新設
※青字 = 変更

I 経営統合に向けた取組みについて

2 診療機能について

(2) 労災病院から引き継ぐ診療機能

① 歯科口腔外科（入院・外来）

診療機能	顎、口腔の外傷、腫瘍、炎症、奇形、変形、唾液腺疾患、顎関節疾患等の口腔外科的疾患の治療と、一般の歯科医ではリスクが高く対応できない心筋梗塞・脳梗塞等の疾患をもった患者の歯科治療
配置場所	本館 地下1階
必要な設備	診療室、技工室、歯科診療ユニット、歯科用レントゲン ほか

② 心不全・心臓リハビリテーション（外来）

診療機能	運動療法、食事療法、生活指導などを組み合わせ、心臓の機能を回復させ、再発や再入院を防ぐための包括的なプログラムを実施する機能
配置場所	本館 2階
必要な設備	心不全・心臓リハビリテーション室、トレッドミル、エルゴバイク ほか

③ 内視鏡検査（健康診断）

診療機能	短期人間ドックについて、バリウム検査、ペプシノゲン検査に加え、内視鏡検査（胃カメラ）を導入
配置場所	市民健康センター 1階
必要な設備	内視鏡室、内視鏡検査機器、洗浄機 ほか

I 経営統合に向けた取組みについて

2 診療機能について

(3) 病床数の設定

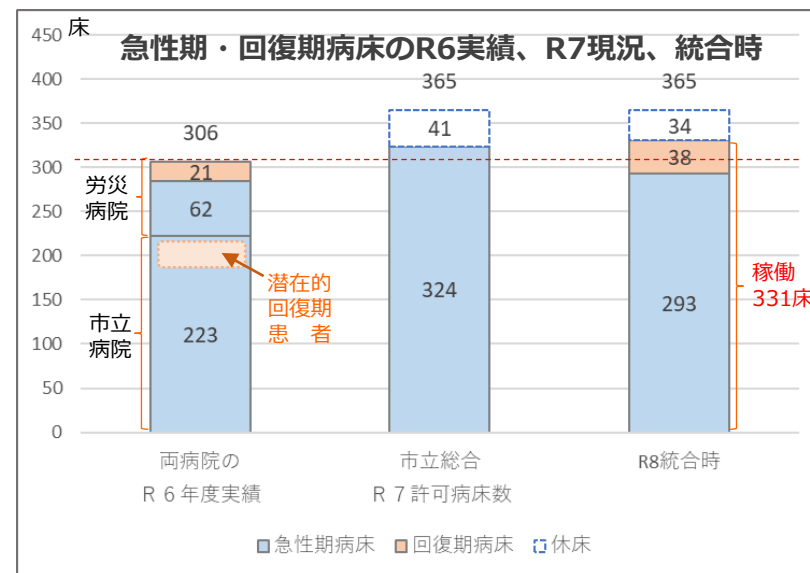
- 統合時に必要な病床数は、令和6年度の利用病床数を基礎とし、両病院で担っている患者を受け入れるために稼働する病床数として**450床**（急性期293床、回復期38床、精神115床、感染症4床）を設定する。

①急性期・回復期病床

- 令和6年度の両病院の1日あたりの利用病床数の実績は306床であり、現在の市立総合病院で稼働している324床でカバーが可能。
- 労災病院では地域包括ケア病棟において、1日あたり約21床の利用実績があり、市立総合病院にも回復期の患者が一定数いるため、回復期病床の設置が必要。

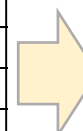
- 新病院の病棟体制へのスムーズな移行も視野に入れ、急性期病棟は7病棟とし、**稼働する急性期病床は293床**とする。
- 統合時までに「**回復期リハビリテーション病棟**」**38床**を**設置**する。

※休床34床は統合後の患者動向を踏まえ稼働を検討



病棟数と病床数

	現在 (R7.4)	
	病棟数	病床数
急性期	8	324床
回復期	—	—
精神	2	115床
感染	—	4床
休床	—	41床
合計	10	484床



	統合時 (R8.4)	
	病棟数	病床数
急性期	7	293床
回復期	1	38床
精神	2	115床
感染	—	4床
休床	—	34床
合計	10	484床

稼働 450床

②精神病床

- 現在の**開放病棟59床と閉鎖病棟56床の合計115床を維持**する。

③感染症病床

- 第二種感染症指定医療機関として**感染症病床4床**を維持する。

I 経営統合に向けた取組みについて

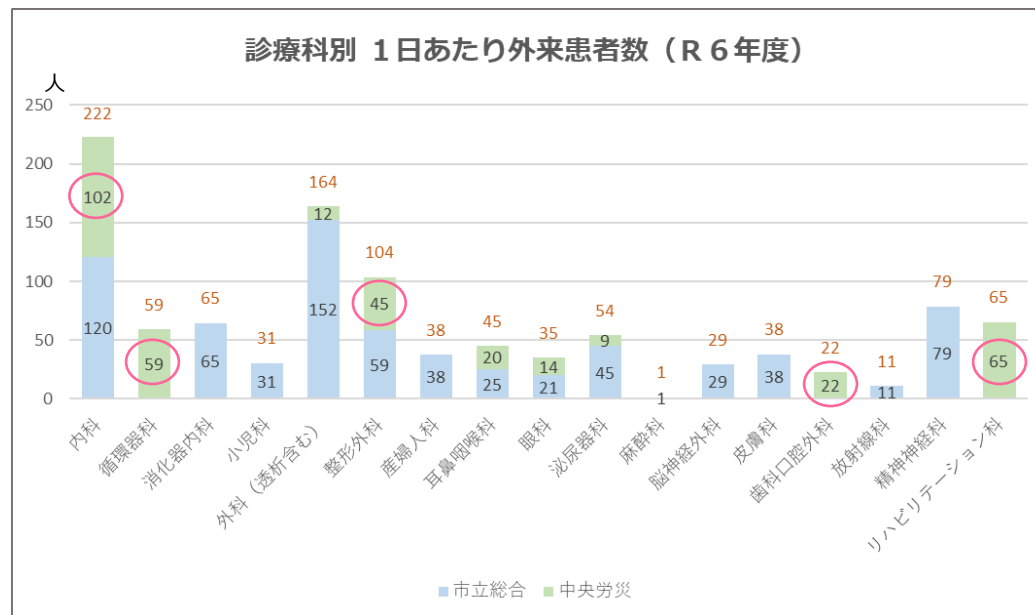
2 診療機能について

(4) 外来患者への対応

①令和6年度の両病院の外来患者数と統合時の対応

- ・令和6年度の1日あたりの外来患者数は、市立総合病院が約700人、労災病院が約350人のため、統合後の外来患者数は1,000人を超える見通しとなる。
- ・歯科口腔外科とリハビリテーション科（心リハ含む）については、機能新設により対応を行う。
- ・その他、統合に伴い内科、循環器科、整形外科の外来患者数が大きく増えることが見込まれる。

内科系の診察室3室、整形外科の診察室1室を確保



外来患者の受入方針

- ・患者数の多い内科以外は、医師の受入れ体制に応じて市立総合病院で受け入れることを基本とする。
- ・内科については、

症状が不安定、過去に入退院を繰り返している、近い将来入院が見込まれる、検査が必要、他科受診（複数の診療科を受診）している場合

市立総合病院への紹介を基本

症状が安定し、定期受診している患者

かかりつけ医への紹介を基本

※上記方針を基本としつつ、主治医と患者が相談の上、通院先を選択する。

I 経営統合に向けた取り組みについて

2 診療機能について

(5) 院外処方の導入

- ・市立総合病院では、令和2年度から障がい者支援施設（5施設）の入居者・通所者を対象に院外処方を実施している。
- ・新病院では、地域包括ケアの推進と薬剤業務の対物から対人へのシフトを図るため、院外処方への移行を決定している。
- ・労災病院では、すでに院外処方へ完全移行しており、かかりつけ薬局を決めている患者への配慮が必要である。
- ・院外処方の早期導入は患者だけでなく病院職員も運用に慣れ、新病院へのスムーズな移行につながる。



統合前から院内処方と併用で希望者に対して院外処方を導入する

■ 導入スケジュール

開始時期	令和7年10月（予定）
運用方法	院外処方を希望する方に処方箋を発行 ※院内での処方を希望する方にはこれまで通り院内で調剤
周知方法	院内掲示、病院ホームページ（市ホームページからもリンク）、広報いわみざわ

I 経営統合に向けた取組みについて

3 労災病院職員の移行について

(1) 移行予定者数と統合時の職員数

- ・現時点では、令和7年3月に実施した調査結果を踏まえ、統合時に市立総合病院への移行を希望する正職員110人と非正規職員も含めた142人を移行予定職員数として見込んでいる。
- ・労災病院からの移行予定職員を含めた統合時の職員数は859人となることが見込まれる。
- ・非正規職員の採用職種や人数は、現在実施中の正職員に対する最終的な移行希望調査結果を踏まえて決定する。

	市立総合病院 のR7.4職員数	労災病院からの 移行予定職員数	R8.4統合時の 想定職員数
医師	62人	10人	72人
看護職	423人	73人	496人
医療技術職	135人	36人	171人
事務職等	97人	23人	120人
合計	717人	142人	859人

※非正規職員数を含む

■職員採用のスケジュール

区分	時期	内容
正職員	R7.6～7月	最終意向調査
	R7.9月以降	希望者に対する面談
非正規職員	R7.9月	採用職種・人数の決定
	R7.9月	最終意向調査
	R7.10月	希望者に対する面接

(2) 移行対象者の勤務条件等（両設置者間での合意内容）

- ・統合時の給与（号俸）の決定や休暇などは、岩見沢市の条例・規則を適用することを基本とする。
- ・年次有給休暇と役職の取扱いについては、労災病院での経験や実態を踏まえた取扱いとする。

年次有給休暇：令和8年4月1日に労災病院で付与されるはずだった日数を付与する

統合時の役職：労災病院と同等の役職での移行を基本としつつ、本人の意向を確認の上決定する

I 経営統合に向けた取組みについて

4 今後のスケジュールについて

4月1日経営統合

項目	令和7年						令和8年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
診療機能		●		諸室改修			●	機器移設		
				● 院外処方導入				運用方法の打合せ・研修		
							● 回復期リハビリテーション病棟の稼働開始			
職員の移行										
正職員	● 最終意向調査	● 内定	● 勤務希望者の面談							
非正規職員			● 採用職種・人数の決定							
			● 最終意向調査	● 勤務希望者面接						
	●	● 更衣室の増設								
		● 駐車場整備								
医療情報システム										
	● 統合範囲調整 概算費用把握		● 仕様決定 契約締結	● 機器調達			● 部門別システム データ移行作業			

※北海道中央労災病院の診療については、令和8年3月下旬での休止に向け、新規外来患者の受入停止や入院制限の時期について、両病院間で調整中。

・広報誌やホームページなどを通じて、経営統合に関する情報提供に努める。

Ⅱ 新病院建設に向けた取組みについて

1 実施設計段階の取組みについて

令和6年4月 **新病院建設工事実施設計の開始**

＜開始段階の課題＞

- ・ポストコロナにおける患者数を踏まえた適正規模の検証
- ・必要な医療機能は維持しつつ、可能な限りコンパクトな病院への見直し

令和6年7月 **「新病院の施設規模見直し（中間報告）」の公表**

- ・見直し後の施設規模で実施設計の作図開始
- ・施工予定者による概算事業費の積算

令和7年1月 **「新病院の施設概要【規模見直し後】（案）」の公表**

- ・パブリックコメントの実施（1月～2月）→24人から50件の意見
- ・病院本体に係る実施設計の完成（3月）
- ・施工予定者による実施設計に基づく工事費積算の開始

令和7年6月 **新病院建設工事実施設計の完了**

- ・院内保育園や外構も含めた実施設計の完了
- ・新病院の施設概要【規模見直し後】の公表（8月）※R7年1月公表の案から施設内容に変更なし

施設規模

＜基本設計段階＞
病床数 462床
延べ床面積
約40,280㎡

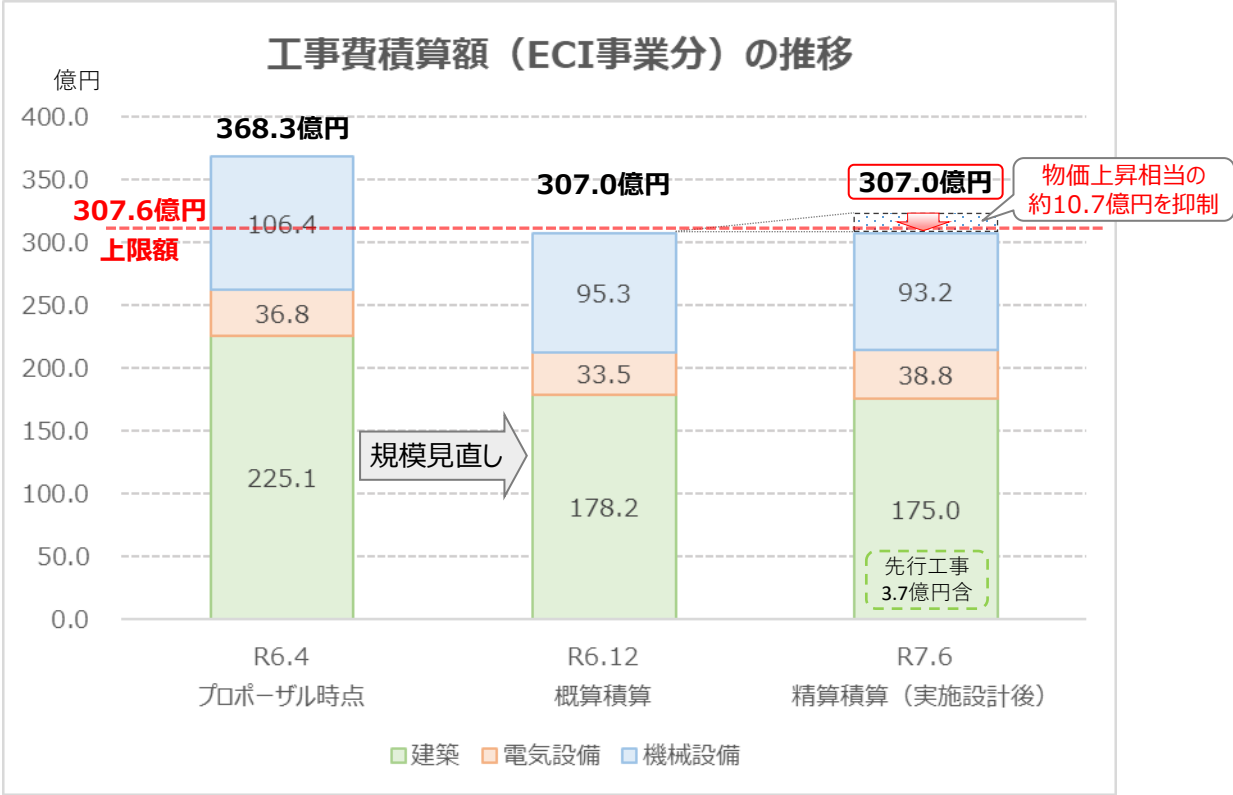
＜中間報告段階＞
病床数 372床
延べ床面積
約32,500㎡

＜見直し後段階＞
病床数 358床
延べ床面積
約33,200㎡

Ⅱ 新病院建設に向けた取組みについて

2 工事費積算額の推移と全体事業費について

- ・実施設計後の工事費積算額（ECI事業分）は約307.0億円となり、目標合意金額（307.6億円）内に収まる見通しとなった。
- ・ECI事業以外の保育所や外構等の工事費、医療機器・什器備品の購入費、情報システムの整備費などについては、全体事業費（416.9億円）内に収まるよう引き続き精査を行っていく。



新病院整備の概算事業費

設計・監理費		11.5億円
建築工事費	保育所	2.4億円
	ECI事業	302.3億円
外構	ECI事業	5.3億円
	ECI以外	14.6億円
解体経費		12.5億円
医療機器		43.0億円
什器備品		4.0億円
情報システム		13.6億円
事務費など		5.7億円
移転費など		2.0億円
全体事業費		416.9億円

Ⅱ 新病院建設に向けた取組みについて

3 エネルギーサービス事業について

(1) ES事業のスケジュール



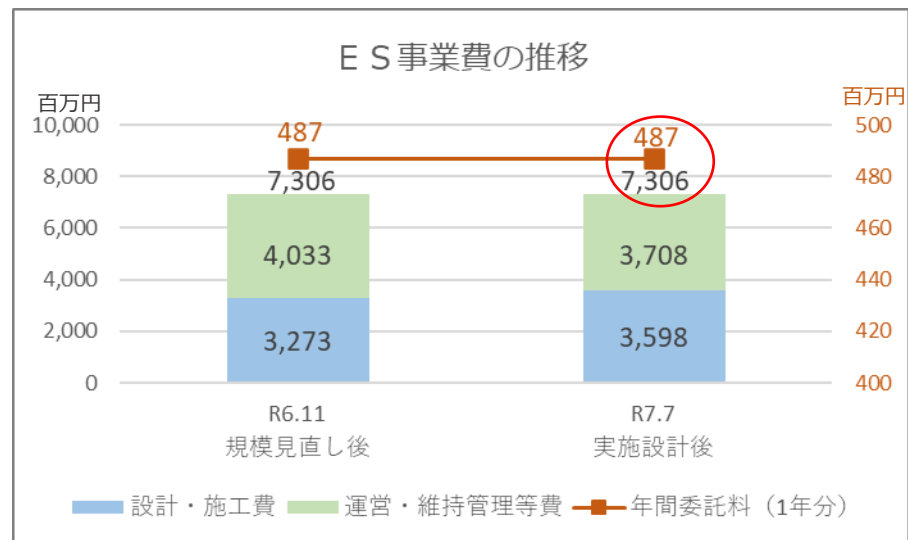
基本協定書：市とES事業者が履行すべき義務の内容や、ES事業者が行う準備行為などES契約の締結に向け必要事項を定めたもの

基本合意書：ES設備の施工内容や事業費を定めたもの

ES契約書：ES設備の運用条件や維持管理費等を定めた契約

(2) ES事業費について

- ・実施設計後（7月段階）のES設備の設計・施工費は約36億円となり、物価上昇等により昨年11月段階から約3.2億円の増となった。
- ・運営・維持管理等費については、約3.2億円の減額を図り、全体のES事業費は昨年11月段階と同程度となる調整を行った。
- ・基本合意書締結までの間で、引き続き、ES事業者と事業費抑制に向けた協議を進める。



Ⅱ 新病院建設に向けた取組みについて

4 JVの組成について

- ・病院本体の工事請負契約の締結先となる予定のJV（異業種特定建設工事共同企業体）の構成は下図のとおり。

岩見沢市新病院 異業種特定建設工事共同企業体

代表者：大成建設（株）札幌支店

赤下線 = 各工事JVの代表者

青下線 = 市内業者

建築

大成・松浦・勝井 **建築工事** 特定建設工事共同企業体

構成：大成建設（株）札幌支店、松浦建設（株）、勝井建設工業（株）

強電

鈴鹿・浅海・創電・千葉・タカサキ **強電設備工事** 特定建設工事共同企業体

構成：（株）鈴鹿、浅海電気（株）札幌支店、（株）創電、千葉電気工事（株）、（株）タカサキ電設

弱電

きんでん・南部電設工業 **弱電設備工事** 特定建設工事共同企業体

構成：（株）きんでん北海道支社、（株）南部電設工業

空調

朝日・道央興産 **空調設備工事** 特定建設工事共同企業体

構成：（株）朝日工業社北海道支店、道央興産（株）

冷暖房

三機・日管 **冷暖房設備工事** 特定建設工事共同企業体

構成：三機工業（株）北海道支店、日管建設（株）

給排水

太平・五建・共進 **給排水衛生設備工事** 特定建設工事共同企業体

構成：（株）太平エンジニアリング北海道支店、五建工業（株）札幌支店、共進工業（株）

Ⅱ 新病院建設に向けた取組みについて

5 工事等スケジュールについて

・令和10年秋の開院を目途とし、下記工事等スケジュールで取り組んでいく。

	R 7				R 8				R 9				R 10			
	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3
新病院の建設	樹木伐採 ●→ R7.5～R7.6															
	先行工事 ●→ R7.7～R7.10															
	病院本体工事 ●-----→ 契約：R7.8～9、工期：R7.11～R10.9（予定）															開院準備・開院
	ES工事 ●-----→ 基本合意書の締結：R7.8～9、ES工事：R8.2～R10.9（予定）															
工事関連業務		新病院建設工事監理業務 ●-----→ 委託期間：契約締結日～R10.9（予定）														
		建設工事コンストラクション・マネジメント業務 ●-----→ 委託期間：契約締結日～R10.9（予定）														
労災病院の解体 （機構本部発注）	実施設計業務 → 委託期間：R7.3～R8.3				解体工事 ←-----→ 契約時期、工期は実施設計を踏まえ精査											

開院準備・開院

Ⅱ 新病院建設に向けた取組みについて

6 各契約の概要について

・新病院の建設に関連する令和7年度中の契約（予定を含む）の概要は下記のとおり。

（１）支障木伐採処理業務委託

受託者	昭和 マテリアル（株）
委託期間	令和7年4月1日～令和7年6月30日（契約締結：令和7年3月31日）
契約金額	10,890,000円（税込）

（２）新病院建設用地造成工事

受注者	大成建設（株）札幌支店
工期	令和7年7月4日～令和7年10月31日（契約締結：令和7年7月3日）
契約金額	369,270,000円（税込）

（３）新病院建設工事（予定）

受注予定者	岩見沢市新病院異業種特定建設工事共同企業体
工期	令和7年11月1日～令和10年9月30日（契約締結：令和7年8月～9月）
契約金額	見積合わせの上決定

（４）新病院建設工事監理業務委託（予定）

受託予定者	（株）梓設計 ※実施設計者との随意契約
委託期間	契約締結日～令和10年9月30日
契約金額	見積合わせの上決定

（５）新病院建設工事コンストラクション・マネジメント業務委託（予定）

受託予定者	日建設計コンストラクション・マネジメント（株）※実施設計CM事業者との随意契約
委託期間	契約締結日～令和10年9月30日
契約金額	見積合わせの上決定

Ⅲ 岩見沢市病院事業経営強化プランの改定案について

1 主な改定内容

北海道中央労災病院との経営統合 及び 新病院の建設

 進捗状況を反映した改定を実施

		当 初	改 定
経営統合	経営統合の時期	早期経営統合について検討	2026(令和8)年4月
	内 容	—	労災病院から継続する機能 統合時に新規・追加する機能 R8.4月の想定職員数 標榜を予定する診療科 (15診療科 → 22診療科)
新病院	施設規模	合計 462床	合計 358床
	開院時期	2028(令和10)年春	2028(令和10)年秋
そのほか時点修正により記載内容を変更			



上記を踏まえて、各年度収支計画 及び 各年度数値目標を変更

Ⅲ 岩見沢市病院事業経営強化プランの改定案について

2 各年度収支計画【総合病院】

経営強化プラン P28～29

(単位:百万円)

当初 ↓	項目	R 4 決算	R 5 見込	R 6 予算	R 7 計画	R 8 計画		R 9 計画	
	経常収益 A	11, 897	11, 235	11, 795	12, 259		12, 981		13, 254
	経常費用 B	11, 881	12, 241	12, 733	12, 917		13, 739		14, 055
	経常損益 (A-B) C	16	▲1, 006	▲938	▲659		▲758		▲801
	特別損益 D	▲3	▲13	▲19	▲30		▲5		▲110
	純損益 (C+D)	13	▲1, 019	▲957	▲689		▲763		▲911

改定 ➡ R 5 決算、R 6 決算見込、R 7 予算を反映し、R 8 及び R 9 計画は経営統合によるシミュレーションを反映

➢患者数 ➡ 病床稼働率およびR 6 実績の労災病院の患者数を基に試算

➢職員数 ➡ 統合時に市立総合病院での勤務を希望する労災病院職員数を基に試算 (R7.3意向調査反映)

(単位:百万円)

項目	R 4 決算	R 5 決算	R 6 見込	R 7 予算	R 8 計画			R 9 計画		
					計 (①+②)	総合本体 ①	統合影響 ②	計 (①+②)	総合本体 ①	統合影響 ②
経常収益 A	11, 897	10, 968	11, 240	12, 118	16, 528	12, 428	4, 100	16, 660	12, 571	4, 089
経常費用 B	11, 881	12, 011	12, 369	13, 376	16, 886	13, 648	3, 238	17, 315	14, 084	3, 231
経常損益 (A-B) C	16	▲1, 043	▲1, 129	▲1, 258	▲358	▲1, 220	862	▲655	▲1, 513	858
特別損益 D	▲3	▲8	▲12	▲31	▲8	▲7	▲1	▲44	▲39	▲5
純損益 (C+D)	13	▲1, 051	▲1, 141	▲1, 289	▲366	▲1, 227	861	▲699	▲1, 552	853

- 収益は労災病院からの患者受入れにより増加
- 費用は労災病院職員の受入れ、人事院勧告の影響による人件費の上昇や物価高騰による経費の増嵩により増加

➡経営統合により、医療資源を集約化し、効率的な病院運営を行うことで、R8・R9の赤字額（純損益）は圧縮する見込み

Ⅲ 岩見沢市病院事業経営強化プランの改定案について

3 経営の効率化等【総合病院】

経営強化プラン P24～25

●主な数値目標

当初

項目	R 4実績	R 5見込	R 6目標	R 7目標	R 8目標	R 9目標
経常収支比率	100.1%	91.8%	92.6%	94.9%	94.5%	94.3%
修正医業収支比率	86.8%	86.6%	89.8%	90.7%	91.2%	91.9%
1日あたり入院患者数	272.9人	270.7人	287.3人	290.4人	314.6人	314.6人
1日あたり外来患者数	748.5人	712.9人	756.4人	760.0人	760.0人	760.0人
病床利用率	56.4%	55.9%	59.4%	60.0%	65.0%	65.2%
入院患者1人1日あたり診療収入	47,084円	49,778円	51,076円	52,000円	53,000円	54,000円
外来患者1人1日あたり診療収入	26,452円	27,970円	28,156円	28,500円	29,000円	29,500円



改定

項目	R 4実績	R 5実績	R 6見込	R 7目標	R 8目標	R 9目標
経常収支比率	100.1%	91.3%	91.7%	90.6%	97.9%	96.2%
修正医業収支比率	86.8%	85.6%	86.7%	86.5%	96.5%	95.5%
1日あたり入院患者数	272.9人	266.0人	281.5人	290.9人	360.1人	360.1人
1日あたり外来患者数	748.5人	701.5人	718.8人	741.2人	1,076.4人	1,061.4人
病床利用率	56.4%	55.0%	58.2%	60.1%	74.4%	74.4%
入院患者1人1日あたり診療収入	47,084円	49,019円	49,631円	52,359円	56,000円	56,000円
外来患者1人1日あたり診療収入	26,452円	27,570円	27,219円	28,368円	29,000円	29,000円

●経常収支比率及び修正医業収支比率は収支改善により上昇

●1日あたり入院・外来患者数及び病床利用率は労災病院の患者受入れにより上昇

➡経営統合により医療資源を集約化することで、効率的な病院運営となり、数値は改善する見込み

Ⅲ 岩見沢市病院事業経営強化プランの改定案について

4 各年度収支計画【栗沢病院】

経営強化プラン P42～43

(単位:百万円)

当初

項目	R 4 決算	R 5 見込	R 6 予算	R 7 計画	R 8 計画	R 9 計画
経常収益 A	565	717	875	904	937	939
経常費用 B	757	823	918	883	896	894
経常損益 (A-B) C	▲192	▲107	▲43	21	42	45
特別損益 D	0	0	10	0	0	0
純損益 (C+D)	▲192	▲107	▲33	21	42	45



改定

→ R 5 決算、R 6 決算見込、R 7 予算を反映し、R 8 及び R 9 計画は R 7 予算を参考としたシミュレーションを反映

➤ 患者数・職員数 → プラン策定時の患者数及び職員数を基に試算

(単位:百万円)

項目	R 4 決算	R 5 決算	R 6 見込	R 7 予算	R 8 計画	R 9 計画
経常収益 A	565	737	913	994	1,026	1,028
経常費用 B	757	821	893	1,016	1,015	1,013
経常損益 (A-B) C	▲192	▲84	20	▲22	11	15
特別損益 D	0	0	10	0	0	0
純損益 (C+D)	▲192	▲84	30	▲22	11	15

●収益は入院患者数や診療単価の増により増加

●費用は人事院勧告の影響による人件費の上昇や物価高騰による経費の増嵩により増加

➡総合病院や他医療機関からの紹介による入院患者数の増加や診療単価の上昇に伴い、経常収益は増加するが、人件費の上昇や経費の増嵩により、経常費用の大幅な増加が見込まれるため、プラン策定時と比較し、R8・R9の黒字額（純損益）は若干減少する見込み。

Ⅲ 岩見沢市病院事業経営強化プランの改定案について

5 経営の効率化等【栗沢病院】

経営強化プラン P39

●主な数値目標

当初

項目	R 4実績	R 5見込	R 6目標	R 7目標	R 8目標	R 9目標
経常収支比率	74.6%	87.1%	95.3%	102.4%	104.7%	105.0%
修正医業収支比率	53.9%	68.8%	80.3%	83.7%	86.4%	86.7%
1日あたり入院患者数	41.5人	57.6人	77.0人	77.0人	80.0人	80.0人
1日あたり外来患者数	45.7人	45.2人	50.0人	50.0人	50.0人	50.0人
病床利用率	48.8%	67.8%	90.6%	90.6%	94.1%	94.4%
入院患者1人1日あたり診療収入	16,189円	19,117円	19,595円	19,600円	20,000円	20,000円
外来患者1人1日あたり診療収入	11,216円	11,555円	11,558円	11,570円	11,570円	11,570円



改定

項目	R 4実績	R 5実績	R 6見込	R 7目標	R 8目標	R 9目標
経常収支比率	74.6%	89.8%	102.2%	97.9%	101.1%	101.5%
修正医業収支比率	53.9%	71.5%	82.0%	78.9%	82.3%	82.6%
1日あたり入院患者数	41.5人	59.2人	74.2人	77.0人	80.0人	80.0人
1日あたり外来患者数	45.7人	47.5人	45.1人	50.0人	50.0人	50.0人
病床利用率	48.8%	69.9%	87.3%	90.6%	94.1%	94.1%
入院患者1人1日あたり診療収入	16,189円	19,137円	20,847円	21,843円	22,000円	22,000円
外来患者1人1日あたり診療収入	11,216円	11,425円	11,087円	11,385円	11,570円	11,570円

●経常収支比率等の比率は人事院勧告の影響による人件費の上昇や物価高騰による経費の増嵩に伴う収支悪化により若干減少

●入院患者1人1日あたりの診療収入がR6・R7と上昇傾向であることから、R8・R9目標もプラン策定時より上昇する見込み

➡人件費や経費の増加により、経常収支比率等は若干減少する見込みだが、プラン策定時の患者数を維持し、入院患者1人1日あたり診療収入の上昇を見込み、収益を確保する。

Ⅲ 岩見沢市病院事業経営強化プランの改定案について

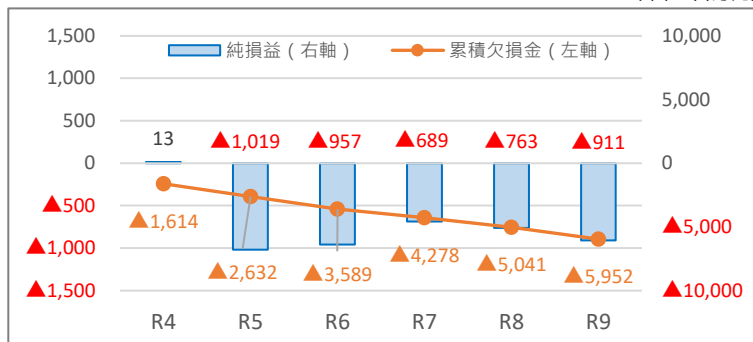
6 純損益と累積欠損金

経営強化プラン P28、42

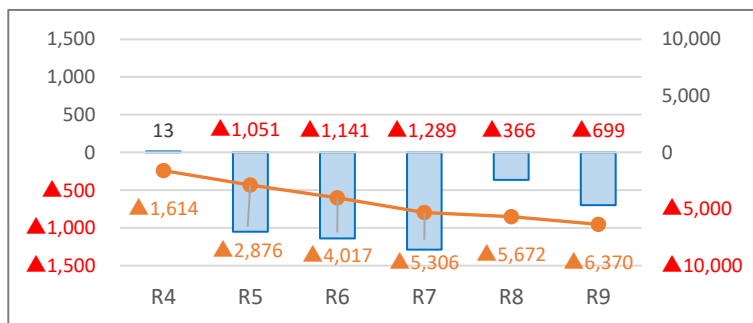
総合病院

(単位:百万円)

当初

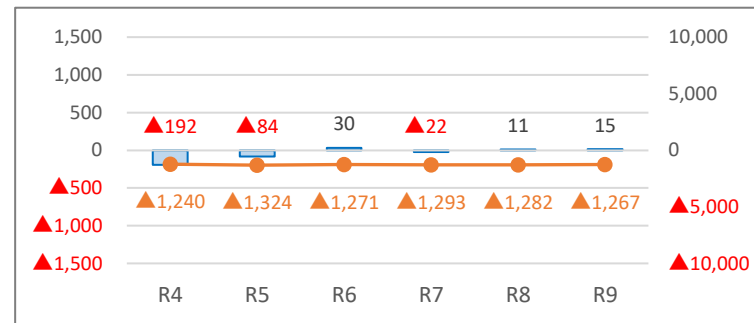
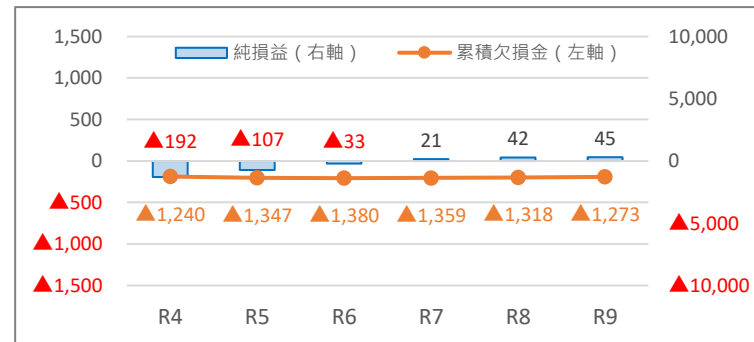


改定



栗沢病院

(単位:百万円)



- ➡ 【総合】当初プランと比較して、人件費の上昇や経費の増嵩によりR6・R7の赤字額は大きくなったが、R8・R9は経営統合による医療資源の集約化により、収支の改善が図られる見込み。
- 【栗沢】当初プランではR7で見込んでいた黒字化をR6に前倒しできたが、人件費の上昇などにより、当初プランと比較して、R8以降の黒字規模は縮小する見込み。

引き続き、収益確保策の検討や費用の抑制などの経営努力を行いながら、
単年度収支の黒字化と累積欠損金の削減に努めていく

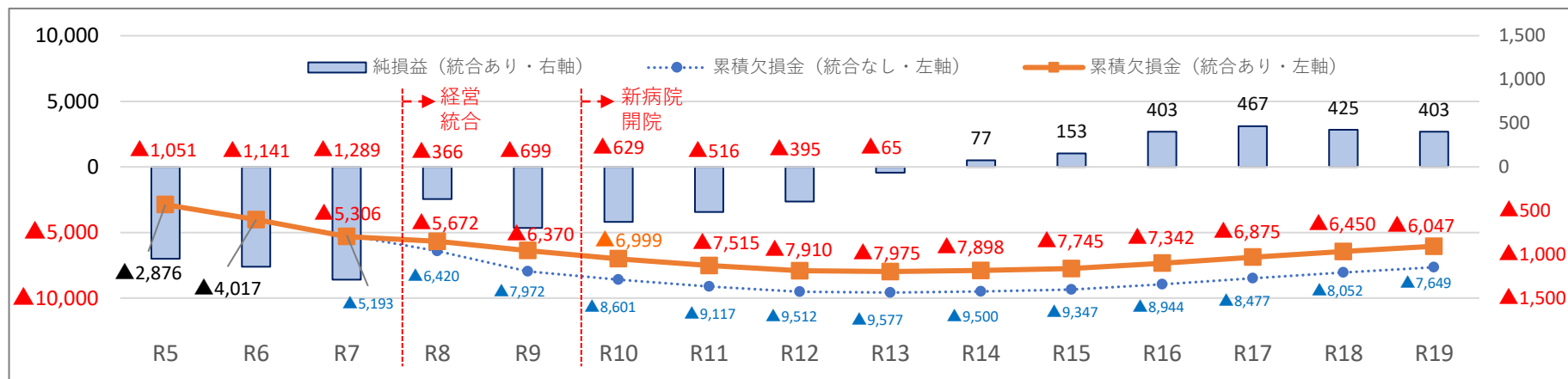
IV 市立総合病院の中長期的な収支見通しについて

1 中長期的な見通し

- ・純損益については、新病院開院後5年目（令和14年度）以降に黒字化する見通し
- ・今後も、地方財政健全化法に基づく資金不足は発生しない見通し

（1）純損益と累積欠損（剰余）金の推計

（単位：百万円）



（2）資金不足額の推計

（単位：百万円）

